

『木曾路名所図会』書き込み

東洋文庫「68 菅江真澄遊覧記」所収の「えみしのさへき」の注五に、内田武志が次のように記している。

註五

岩葛花、岩かづら、岩面花、イソメキナ アイヌ語でイソメキナと呼ぶ植物は未詳である。真澄が、後年、

『木曾路名所図会』の「駒草」の個所の欄外に次のように記入している。

「駒草は戸隠山にて山桜草といふくさなり。この草を松前江差の磯山にて岩面花といひ、また山宝塔花といふ。津軽の岩城山に紅、白、紫のもの多し、花はさくらさうに似て紫楓のごとし、そのほか処々山中にあり」右の文を参考とし、また現在の方言からおしはかると、長野県でイワカガミを山桜草と呼ぶ報告もあり、また秋田県、青森県でイワカガミをいわざくら、つちざくらと呼ぶから、真澄の戸隠で見たのはイワカガミであったかと思われる。真澄はイワカガミをサクラソウ類のなかまに入れていたのであろう。(後略)